

ギャッジアップの角度差で経管栄養中の 嘔吐による誤嚥は予防できるか

静岡県 医療法人社団 喜生会 新富士病院

看護師 保坂真吾

I.はじめに

今回の研究では胃瘻及び経鼻からのカテーテルによる経管栄養が行われているが嘔吐する患者様が多く、経管栄養中のギヤッジアップの仕方が病棟スタッフ間においてばらつきがあった。

今回は角度差に着目し角度をつけることで胃食道逆流による嘔吐を防ぎ誤嚥を予防できるか調査したため報告する。

Ⅱ.調査研究対象

医療保険適応病棟に平成18年2～4月に入院していた経管栄養を行っている脳出血後遺症・脳梗塞後遺症・パーキンソン病を疾患として持つ患者様23名内訳胃瘻17名経鼻6名医療区分2～3

Ⅲ. 方法

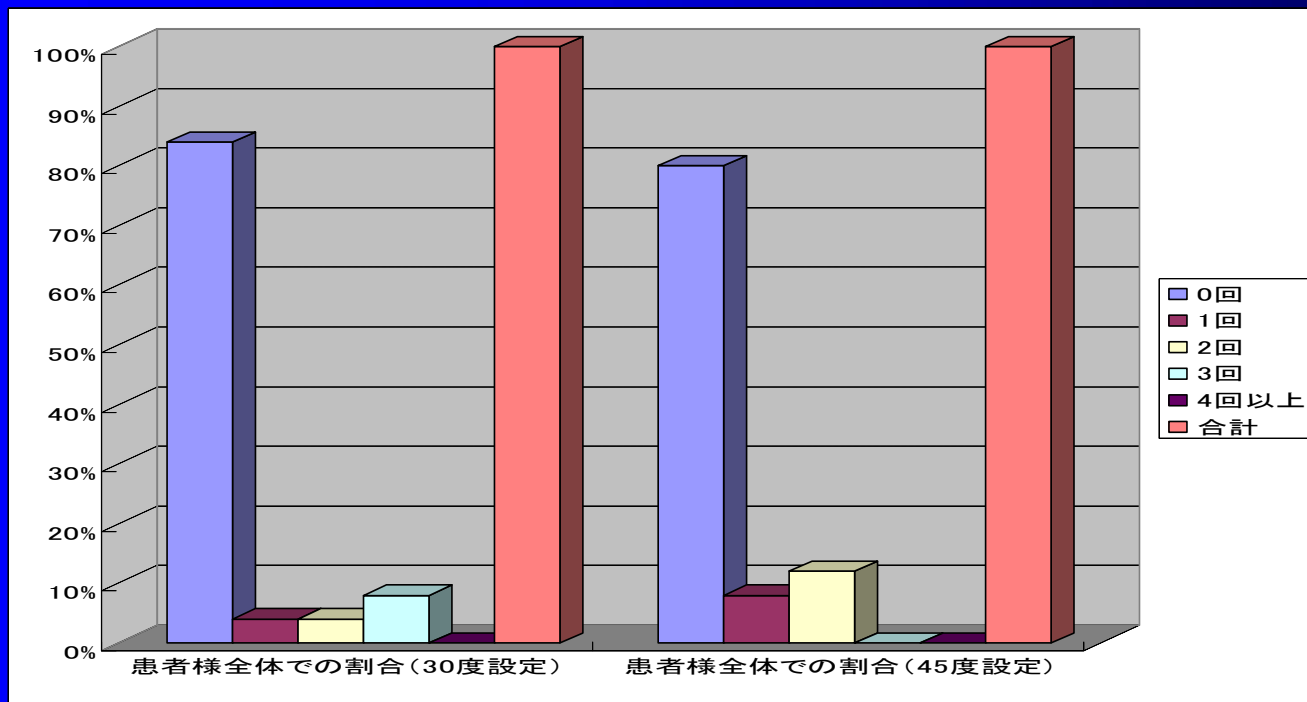
経管栄養中のギヤッジアップの角度を上下肢拘縮しているために60度設定では患者様に苦痛を伴うため、30度と45度に設定し経管栄養を施行し嘔吐の発生数と嘔吐した患者様の状態を調査した。その結果を調査する3ヶ月前と比較した。

IV.結果

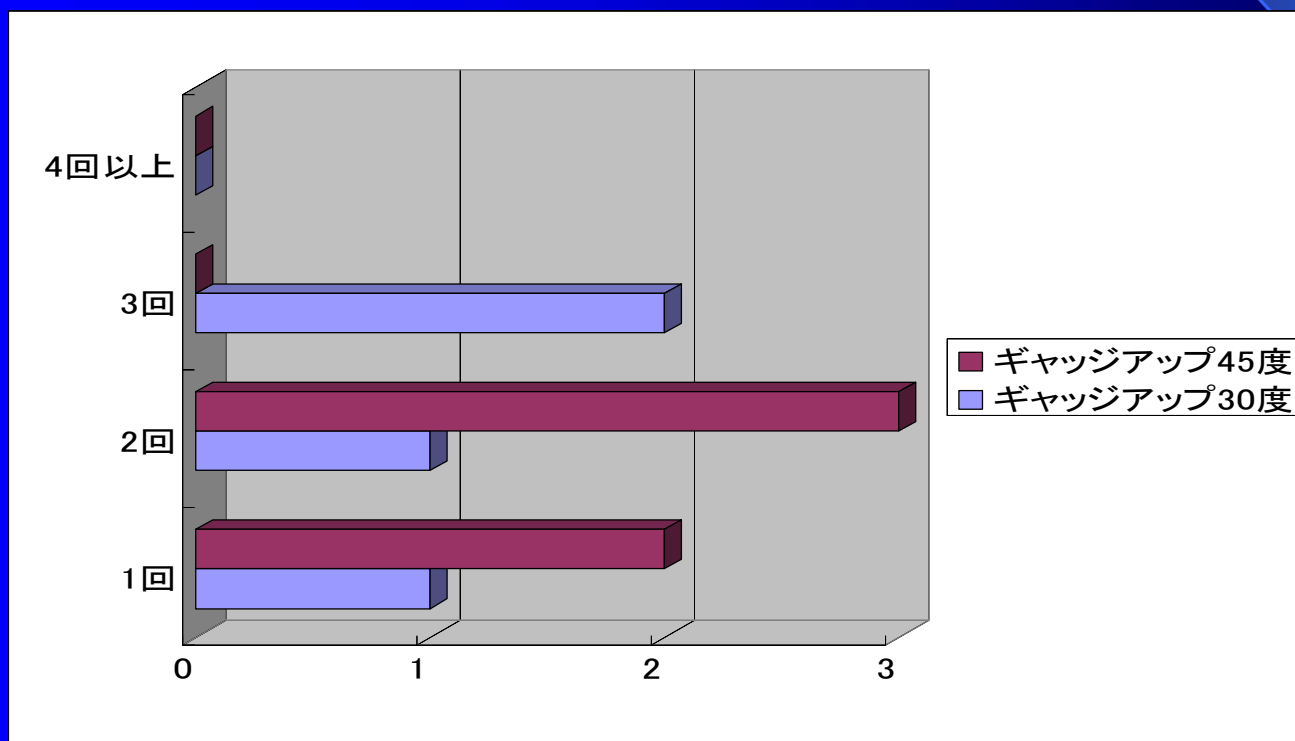
調査研究対象とした患者様23名中の嘔吐の回数はギヤッジアップ30度では9件(嘔吐した患者様の全体での割合は18%)45度では8件(同様に21%)で調査期間3ヶ月の合計17件(図)であった。ギヤッジアップの角度差では差は生じえなかったが、調査開始前3ヶ月では25件(嘔吐した患者様の全体での割合は30%)調査前より減少した。

誤嚥性肺炎が疑われる発熱をした症例は2件であったが調査前では4件であったためこれも調査前より減少した。

嘔吐回数	患者様全体での割合 (30度設定)	患者様全体での割合 (45度設定)
0回	84%	80%
1回	4%	8%
2回	4%	12%
3回	8%	0%
4回以上	0%	0%
合計	100%	100%



嘔吐回数	ギャッジアップ30度	ギャッジアップ45度
1回	1	2
2回	1	3
3回	2	0
4回以上	0	0



V. 考察

従来臨床看護技術において経管栄養中ギャッジアップの角度はファーラー位(45度)もしくはセミファーラー位(30度)での実施は流動物の逆流による誤嚥防止のためであるとされている。

実際は、各スタッフ間において各自の主観でギャッジアップが行われていたため、その時によってはかなりギャッジアップの角度がまちまちになってしまっていた。体位変換時の刺激や入浴後のベッドへの移乗時に嘔吐していた患者様も今回の研究において各スタッフ間で統一したことで調査研究以前と比べ嘔吐する回数が減少することができたと考える。

VI.まとめ

今回の研究では期間が短期間であったため十分なデータを集めることができなかった。患者様個々にて嘔吐する原因は異なるがその原因を突き止め対応していくことで嘔吐を減少させ誤嚥を予防していくことが大切であると実感した。

今後患者様個々に応じた看護を提供できるようにしていきたい。

引用参考文献：メヂカルフレンド社
臨床看護技術(成人・老人編)
編書 岡崎美智子・小田正枝